

別紙

## 福祉サービス第三者評価の結果

### 1 評価機関

名称： コスモプランニング有限会社	所在地： 長野市松岡1丁目35番5号
評価実施期間： 令和2年10月13日から令和3年2月17日まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） B16021、B18014、050482	

### 2 福祉サービス事業者情報（令和2年12月現在）

事業所名： （施設名） 長野市とがくし保育園	種別： 保育所
代表者氏名： （管理者氏名） 市長 加藤 久雄 保育・幼稚園課課長 島田 みち代	定員（利用人数）： 72名（57名）
設置主体： 経営主体： 長野市	開設（指定）年月日： 平成23年4月1日
所在地：〒381-4102 長野県長野市戸隠豊岡1541番地	
電話番号： 026-254-3393	FAX番号： 026-254-3393
電子メールアドレス： —	
ホームページアドレス： <a href="http://www.city.nagano.nagano.jp/">http://www.city.nagano.nagano.jp/</a>	
職員数	常勤職員： 12名 非常勤職員： 10名
専門職員	（専門職の名称） 名
	・園長 1名 ・給食調理員 4名
	・保育主任 1名 ・事務員 1名
	・保育士 14名 ・支援員 1名
施設・設備 の概要	（設備等）
	（屋外遊具）
・ほふく室 … 1室 ・保育室 … 4室 ・遊戯室 … 1室 ・調理室 … 1室 ・事務室 … 1室 ・便所 … 4室 ・2間鉄棒 ・小型滑り台 ・6角はん登り棒	

### 3 理念・基本方針

○長野市保育理念(保育所型認定子ども園を含む)

子どもの健やかな心身の発達を図り、望ましい未来を作り出す力の基礎を培う。

○児童福祉法に基づき、保育を必要とする子どもを保育することを目的とする。

○子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進する。

#### ○長野市保育基本方針

- 安全で安心できる生活の場を整え、子どもが自己を十分に発揮できるようにします。
- 専門の資格を持った職員が養護と教育を一体的に行い、子どもの発達を援助します。
- 保護者の気持ちを受け止め、共に子育てをします。
- 家庭と連携を図りながら、子育ての悩みや相談に応じ助言するなど、地域における子育て支援の拠点として、社会的役割を果たします。
- 保育を実践するにあたっては、「全体的な計画」に基づき、一貫性を持って子どもの実態に応じた柔軟な保育を展開します。

#### ○長野市とがくし保育園の保育目標

- 好きな遊びを見つけられる子ども
- 故郷戸隠を大好きになる子ども

## 4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

とがくし保育園は長野市が直接運営する 28 保育園(内休園 1 園)と 2 認定こども園のうちの一つで、平成 17 年 1 月に旧戸隠村が長野市に合併されて以降、長野市として運営してきた戸隠中央、戸隠宝光社、戸隠東ノ原の 3 保育園が統合され平成 23 年 4 月 1 日に「とがくし保育園」として現在地に新築された。

長野市戸隠地区は長野県北部、妙高戸隠連山国立公園に属する戸隠山の南東方面に広がり、長野市と信濃町にまたがる標高 1000~1200m の高原で、地区には奥社・中社・宝光社・九頭龍社・火之御子社の五社からなる全国的にも有名なパワースポットの戸隠神社があり、宿坊の集まる集落が形成され、昭和 30 年代には観光開発が進み、スキー場、森林植物園、牧場、キャンプ場などがある。風土と自然条件がマッチしているため、霧下そばと呼ばれる薫り高い風味のおいしいそばがで、初夏と初秋の 2 回咲くそばの白い花が高原一面に広がり、戸隠そばとして名物となっている。江戸時代初期から受けつがれてきた戸隠特産の根曲り竹による竹細工などもあり、歴史と伝統の重みを感じる長野市内でも重要な観光スポットとなっている。

当保育園は標高 910m という長野市公立保育園一の高い場所にあり、地続きの北隣に戸隠小学校、近くには長野市役所戸隠支所や市戸隠農村環境改善センター、市戸隠保健センター、森林組合連絡所、JA 支所などがあり戸隠地区の中心部となっている。

当園では長野県が進めている信州自然型保育(信州やまほいく)認定制度の普及型の認定を 2016 年 10 月に受け、「豊かな自然と温かな地域の中で、子どもたちの“人生の根っこ”を育みます」という活動を推進している。園舎の玄関を入ると当園を中心とした地域マップが 2ヶ所に掲示され、いくつかの散歩コースからは急峻な戸隠山の山容と裾野に広がる森林や田畑を眺めることができ、天候に関係なく、毎日、園外に出掛け、かつては海であったという戸隠の歴史や立地を生かし、戸隠独自の動植物に親しみ、様々な自然から学び足腰を鍛え、地域の人々とも関わっている。

現在、当園には 0 歳児 2 名と 1 歳児 10 名のひよこ組、2 歳児 12 名のりす組、3 歳児 11 名のどんぐり組、4 歳児 11 名のいちご組、5 歳児 11 名のすみれ組のクラスがあり、それぞれの発達段階に合わせて作成された令和 2 年度「全体的な計画」に掲げた「豊かな自然を生かし子どもの発達を援助し、主体性や自己肯定を育みます」「安全で安心できる生活の場を整え、友だちや保育者との関わりの中で、自立や協調の態度を養います」等の四つの「保育方針」に沿い、子どもの発達の特長や発達過程を理解し、また、その発達及び生活の連続性にも配慮しつつ「好きな遊びを見つけられる子ども」、「故郷戸隠を大好きになる子ども」という当園の保育目標の実現に向けて、子どもたちと生活を共にし、全職員が積極的に取り組んでいる。

こうした中、当園の隣には子どもたちが就学する戸隠小学校があり、「長野乳幼児期の教育・保育の指針」の基本方針Ⅱ「育ちをつなぐ」の「幼・保・小の連携」にある「小学校との連携の充実」に沿い、例年であれば年長の子どもたちはその小学校の音楽会や運動会に招かれ、また、授業参加をするなど、小学生と定期的に交流しているが、今年度、新型コロナウイルスの影響を受け一部自粛せざるを得なくなっている。当園では新型コロナウイルス感染対策を十分行い、緊急時の避難場

所となっている戸隠中学校の生徒の職場体験を受け入れ、子どもたちとのふれあいの機会を作り、中学校の先生も打ち合わせや体験時に来園し、小まめな連携を取っている。

また、当園では保護者の就労と子育ての両立等を応援するため保護者のニーズに合わせ多様なサービスを提供しており、時間外保育や一時預かり保育、特別利用保育、おひさま広場、障害児保育等を実施している。時間外保育は短時間利用者が時間外保育を必要とする際に利用するサービスで定期的に利用されている保護者がいる。また、一時預かりについては保護者の就労・保護者の疾病・保護者の育児に伴う心理的、肉体的負担の解消等による預かり保育を行うサービスで当園でも希望される方がいる。特別利用保育は小学校に入学する前に集団保育を経験させたいが、身近な地域に利用可能な幼稚園等がなく、保育所を利用する理由（月64時間以上の就労、就学等）もないといった家庭のために、例外的に地域の保育所を利用できるようにしており、今年度も利用している方がいる。おひさま広場は未就園児と保護者対象に園開放及び子育て相談を行うサービスで6月から翌年2月の毎週木曜日に実施しているほか、園の公開の行事への参加も受け入れている。障害児保育は保育を必要とする心身に障害を持つ子どもの保育を行うサービスで園児との遊びや給食を通して子ども同士の交流を行い心身の発達を促すという内容になっている。

当園では「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の目標「かがやく笑顔で 元気に遊ぶ」及び「子ども・子育て支援事業計画 ～わくわく子育て すくすくこども～」に沿いビジョンを明確にしており、当園としての2018年度から2020年度の中期計画として「2017年度認定を受けた『信州やまほいく』を5年サイクルで充実させる」「福祉サービス第三者評価の受審を元に、保育内容の継続を進める」「長野市運動プログラムと共に、戸隠独自のコアキッズ体操の普及を図り、『やまほいく』との連動を図る」「自然を利用した体力の増進を取り入れる」こと等を掲げ、職員は園内や市主催の研修に積極的に参加し、事業計画を理解するとともにその具体化のために必要とされる知識やスキルの習得に努めている。

## 5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	今回が2回目（平成29年度）
---------------	----------------

## 6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

◇特に良いと思う点

### 1) 「生きる力」を育むための自然保育の実践

当保育園の保育目標に「好きな遊びを見つけられる子ども」「故郷戸隠を大好きになる子ども」の二つを掲げ、それらを具体化するために当園の「全体的な計画」の保育方針の一つとして「豊かな自然を生かし子どもの発達を援助し、主体性や自己肯定感を育みます」とし、長野県が推奨している信州型自然保育（信州やまほいく）認定園として2016年10月に登録し5年目を迎えており、戸隠という豊かな自然と温かな地域の中で、子どもたちの人生の根っこを育てている。

当園は妙高戸隠連山国立公園の中の戸隠地域にあり、戸隠連峰の四季折々の表情を間近に仰ぎ見ながらゆったりと大自然と触れ合い、当園の事業計画の今年度の重点課題の一つ、「保育内容の充実」の中で「新保育指針に基づき、『信州やまほいく』の実践を通じて、非認知能力（自己肯定感）を育成する」としており、職員も自然保育の理念をしっかりと共有し、その成果についても手ごたえを感じている。

「非認知能力」とは、「目標を達成するための『忍耐力』・『自己抑制』・『目標への情熱』」、「他者と協力するための『社会性』・『敬意』・『思いやり』」、「情動を抑制するための『自尊心』・『楽観性』・『自信』」などの力や姿勢を指すものとされており、小学校以降の学力の土台となるこの「非認知能力」を十分に育て更にそれ伸ばすことで、生涯にわたって自分を成長させたり、豊かな人間関係を構築する等、人生のあらゆる営みの支えとなるものとされている。

当園の散歩コースからは戸隠山や飯縄山を一望でき、春は木々の芽吹き、夏は爽やかな涼しさ、秋はそばの花や紅葉の美しさ、冬は雪に覆われるなど、変わりゆく四季の変化を身近で感じられる環境にある。園の隣には小学校、また、南側には市の支所・保健センター・環境センター等の公共施設が整い地域の行政の中心でもある。

そうした中、子どもたちは楽しく伸びやかに過ごしており、散歩に出かける機会を多く取り入

れ、戸隠独自の動植物に触れ合い親しんでいる。草花、木の実を見つけ、園に持ち帰り飾ったり制作に活用している。小動物や昆虫（へび、カナヘビ、カブトムシなど）を見つけることもあり、危険がなければ飼育をし、絵本や図鑑で調べるなど、興味を学びに繋げている。春の鯉のぼり祭りには、鯉のぼりを木や葉、花を使い制作し飾り、菖蒲の足湯では散歩で摘んだ草花の中から菖蒲を探すなど自然を活かした保育を行っている。年長児は米作りを行い、ミニプールとバケツを利用し、一人ひとりが田植え、生長観察、稲刈り、脱穀、精米体験をして収穫の喜びを感じている。脱穀機や精米機は昔の用具を地域からお借りしてお米になるまでの大変さを経験し感動も得ている。冬は園庭も雪で埋まり、全園児は其中で楽しくそり遊びや雪遊びを行っている。幼児は近くの土手を利用して、雪上の尻滑りやかちわたりをして全身で遊び体力も自然につけている。

信州やまほいくを実践する中、全園児が一緒に遊ぶことで異年齢の子どもとの関わりを持ち、遊びの発見や助け合いも生まれており、子どもたちは自然の中での遊びを通して心身共に成長している。当園の今年度の事業計画でも、重点課題の「保育内容の充実」として「改定保育指針の『育ってほしい10の姿』を小学校と共有し、連携を促進する」ことを掲げ、乳幼児期にふさわしい生活や遊びを積み重ねることにより、保育所保育において育みたい資質・能力が具体的な姿として、特に卒園を迎える年度の後半に見られるように取り組んでいる。当園では子どもの育ちをつなぐ接続期（アプローチ・スタート）カリキュラムを戸隠小学校と連携し作成・推進しており、就学を見通した当保育園のアプローチ過程で「学びの自立」「生活上の自立」「精神的な自立」の三つを養うために日々の自然保育を柱としてその具現化を図っている。

## 2) 地域の伝承を取り入れた保育

当保育園の子どもたちの生活する地域には中社・宝光社地区があり、2017年2月23日には文化庁から告示がされ、「重要伝統的建造物群保存地区」に選定された。

当地区は標高1,000m以上の高地に在り、戸隠神社を中心とした77.3ヘクタールに亘る「高距（標高が高いの意）信仰集落」で、宿坊群としては全国で初めての選定となった。

地域には5つの神社が祀られ、その中の一つ戸隠神社中社大鳥居の建て替えが令和3年の「式年大祭」に備え83年ぶりに行われている。幼児は建て替えの様子を見に出かけ、宮大工から指導を受け、鳥居柱のカナ削りを実際に体験し、木の香り、柱の様子、薄く削る難しさなど、貴重な体験をすることができた。柱が立ち上がり「笠木」がのる様子も見に出かけ、「笠木」をクレーンで持ち上げ、見事に柱に収まった時には大きな拍手が湧き、感動を味わったという。また、ご神木を頂き、一人ひとりのキーホルダーに加工をして大切な宝物として残している。

戸隠の伝統的な文化を継承する意味から「故郷戸隠を大好きになる子ども」を当保育園の保育目標として掲げ、戸隠神社の禰宜による年神様の話、園近くのお寺の住職によるコマ回し伝承と涅槃会への招待、また同じお寺の茶室での茶道体験なども毎年継続して行われている。

また、今年度は新型コロナウイルスの影響を受け地域の獅子舞が中止となったことから年長児の要望で「獅子舞をしよう!」ということになり、園の夏祭りを目指し、獅子頭を段ボールや紙で作った布の幌（胴幕）も付け、更に、リズムを担う小太鼓なども演奏し、音色や響きに変化を付け本番には本格的に舞い踊ったという。

当園の「年間行事予定」でも、「こいのぼりまつり」「七夕まつり」「豆まき」「ひなまつり」など、子どもたちが伝統と季節に親しみをもてるような行事や保護者が子どもの成長を感じられるイベントを時季に合わせ計画しており、地域の人々や神社の方々から貴重な体験の場を提供していただくことで、子どもたちや保護者の思い出となるだけでなく、それらの素晴らしい体験を心の成長につなげ、更に、長い人生に活かしていくことができるように導いている。

## 3) 地域社会との交流と連携

新保育所保育指針では「家庭及び地域社会との連携」として「こどもの生活の連続性を踏まえ、家庭及び地域社会と連携して保育が展開されるよう配慮すること。その際、家庭や地域の機関及び団体の協力を得て、地域の自然、高齢者や異年齢の子ども等を含む人材、行事、施設等の地域の資源を積極的に活用し、豊かな生活体験をはじめ保育内容の充実が図られるよう配慮すること」されている。

また、「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の基本方針には「『育ちを支える』家庭・地域との連携」が掲げられており、その細目として「地域交流活動の充実」が挙げられ、「地域住民が

子育ての知恵等を生かして教育・保育活動に参加することで、地域とともに子育て支援を行う教育・保育施設を目指します」等としている。

当保育園のある戸隠地域には住民全体で域内の子どもを育てるための「戸隠コミュニティスクール構想」があり、その支援組織としての「とがくしっこ応援団」があり「学習・健康」、「歴史・文化」、「環境」、「農林」、「商工」、その他関係団体等のスペシャリストにより「保・小・中・高」の子どもたちとの交流が図られている。

当保育園の全体的な計画の保育方針でも「家庭や地域との連携を図りながら、共に子どもの成長を支えます」「地域の子育て支援の拠点としての役割を担います」としており、地域と積極的な連携を図り地域社会での生活体験の場を作っている。

令和3年の「式年大祭」に備え進行中の戸隠神社中社大鳥居の建て替え工事を見学したりそこで色々な体験をするなど、戸隠の伝統的な文化を継承する意味から「故郷戸隠を大好きになる子ども」という保育目標を掲げ、地域の子どもフェスティバル、地域の運動会、交番・消防の情報、とがくしっこ応援団の活動等のチラシを配布したりポスターなどを掲示し地域の人々と親しく関わることができるようにしている。

また、戸隠ならではの環境省レンジャーや化石博物館研究員による戸隠地域に生息する野鳥やクマ、テンなどの動物の紹介や各種教室、とがくしっこ応援団の協力活動の一環としての「フェーブル先生による昆虫教室」、戸隠地質化石博物館職員による色々な動物の剥製や毛皮などの地域の動物の紹介なども行われており、生命、自然及び社会の事象について興味や関心を育て、それらに対する豊かな心情や思考力の芽生えを培っている。

さらに、園では世代間交流にも力を入れており、今年度は新型コロナウイルス感染の影響があり一部、自粛したものもあるが、例年であれば、近くにある老人福祉施設の運動会に参加したり、また、歌や踊りなどを披露したりしている。園で行われる夏祭りや運動会、クリスマス会、しめなわ作り等でも地域の人々とふれあう場を設けており、地域の子育て支援の拠点としておひさま広場での園開放、育児講座、育児相談などにも取り組んでいる。小学生・中学生、高校生などの職場体験やボランティアなどの受け入れも行い、愛着などの感情を育んだり、中学校の家庭科の授業への協力なども行い子どもと関わる楽しさを伝えたりし、実習生の受け入れで将来の保育を目指す若者の育成にも努めている。隣の地域の鬼無里保育園とも交流をし、プール遊び、スキー場で楽しく過ごし、年齢、環境が違う仲間との関係も深めている。

長野市公立各保育園が年度に1テーマを設け実施している研究レポートとして、当園では令和元年度に「保育を豊かにする地域との関わりとは ～地域とのつながりを通じて～」を取り上げ、「地域全体で子どもを育てる」という土地柄だからこそ、原点に立ち返り保育園の役割を再認識しようとしている。地区のボランティア、民生児童委員、保健センターの保健師、小学校の保健の先生等と情報交換する機会も多く、地域の子どもの成長を地域の人々に見守っていただき、地域社会との積極的な交流や保育に関する情報の発信などの密な連携を図りながら、子どもの生活がより充実したものとなるよう取り組んでいる。

#### 4) 職員のチームワークの良さ

保育者が集団としてまとまるには、保育に対する共通の思いを持つことが大切で、それにはまず、保育者間で「自分たちは同じ目標に向かっていく仲間どうしである」という相互理解が必要不可欠であるといわれている。そして、園で定めた同じ目標や子どもの姿に向けて保育をしているかを互いに理解しているか、子どもの表情や行動に対しての気づきや評価する力、感覚、つまり保育観が共有できているかを確認し合うことも大切であるといわれている。

当保育園では保育観の共有を深めていくために、園内研修などで保育内容について検討することを重視し、意見の相違がある場合はしっかりと話し合うようにしている。また、行事の反省会や学期末の会議などの「まとめ」を丁寧に行い、さらに、職場の仲間どうしでスポーツに取り組む等、リフレッシュする中で意思疎通を図りながら保育観の共有を積み重ねている。

現在、当保育園には0・1歳児の混合クラス、2歳児から5歳児までの各年齢の4クラス、合わせて5クラスがあり、57名の子どもたちが通っており、日中の職員は園長も含めほぼ12名(パート保育士を含み、給食調理員除く)と、子どもの数、職員数共に少人数で、小規模園の保育の特徴を生かし、職員全員で全ての子どもを育むように一人ひとりの子どもの保育を振り返り発達の状況を共有し成長を見守り、園長、主任、職員、双方向のコミュニケーションを図っている。

0・1歳児の混合クラスと2歳児のクラスを除き、幼児クラスは、3歳児、4歳児、5歳児と年

年齢ごとの保育が保障され、担任・非担任にかかわらず各クラスの垣根を超えた園児対応、保育への支援体制が出来上がっており、それが、園児や周囲に対し十分に配意・気遣いのできる職員の育成へと繋がっている。

当園の今年度の事業計画の重点課題には「職員資質の向上」と「労働環境の改善」が掲げられており、正規職員、会計年度任用職員、朝夕パート保育士、代替保育士、休憩パート保育士等の勤務形態上の相違はあるものの、逆に幅広い年齢層の保育に熱意のある職員が多く、2年目職員や中堅どころの職員も気軽にかつ頻繁に相談できる職場環境が自然に作られている。

また、全体の職員会のほか、幼児職員会と未満児職員会が開かれ、チームとして複数の保育者が共同して幼児・未満児という集団を保育しており、それぞれの職員はチーム保育の一員として自由に協議し合い、保育の計画や実践、評価など、子どもの理解や保育のあり方等の方向性を一つにし、複数の保育者の視点から子どもの集団としての活動を見ながら、また、一人ひとりの子どもに対してもより良い保育を提供できるように取り組んでいる。

職員はさまざまな子どもや保護者を受け止め、日々保育をしている。それと同じように職員同士が多様性を認め合い、仲間を受け止め支え合い、「人の多様性を認め、人格として尊重すること」を、職場における人間関係のルールとして認識し協働している。

#### ◇改善する必要があると思う点

##### 1) 園外活動での更なる安全への取り組み

新保育所保育指針では、その目標として、自然や生命などの事象についての興味や関心を育て、それらに対する豊かな心情や思考力の芽生えを培うことが明記されており、幼児期における自然体験の重要性が謳われている。当保育園は妙高戸隠連山国立公園の戸隠地域にあり、2017年度認定を受けた信州型自然保育(信州やまほいく)を園の重点課題である「保育内容の充実」に掲げ継続的に取り組み、先駆的かつ多岐にわたる自然保育を行っている。

霊峰戸隠山、戸隠神社などのある観光地ということもあり当園では雄大な自然に抱かれながら年間を通じ、さまざまなシーンで自然と触れ合っている。子ども達が歩く「お散歩コース」は5コースほどあり、季節の変わり目等には必ず職員が下見に行き、安全を確認した上で散歩に出かけている。更に、安全対策を強化するため「散歩、危険箇所把握マップ」を作成することで危険箇所を可視化し、園全体でその箇所を確認している。また、散歩時には園児や緊急連絡先のリスト、応急手当品、笛、筆記用具、水の入った専用のリュックを携行し万が一に備えている。

自然の中では危険な動物、植物に触れることもあると思われ、また、不意の災害に遭うことも想定される。ハザード(Hazard:危険:悪い結果になるか分からないが、その可能性があること。人や物に対して危害や損害を与える可能性のある現象、もしくは行為のこと)とリスク(Risk:望ましくない出来事または状態になる可能性とその影響の度合いのこと)の違いを正しく理解し、体験活動の実施場所の下見を十分に行う中で、子どもにとって何が「リスク」となり、何が「ハザード」となりうるのかをイメージすることが大切であるといわれている。

また、子どもたちの活動場所において、「リスク」は子どもにとっての最大の学びであり、気づきでもあり、保育士が全ての危険を排除し、安全な空間の中で過ごし、体験活動を行うことになると、子どもたちが本来持ち合わせている「自ら危険を回避する能力」が身に付かなくなるおそれがあるともいわれている。

今後、事前の安全管理、活動中の安全管理、子どもの状況、安全指導のポイント、自然体験活動を始める前の事故と怪我への備え等のリスクマネジメント(安全管理)について更に研修を重ね、知識・スキルを向上させることで、子どもたちの「行動・態度を観察する力」「話を聴く力」「感情を受け止める力」などを自然保育の中で更に培われていくことを期待したい。

## 7 事業評価の結果(詳細)と講評

共通項目の評価対象Ⅰ福祉サービスの基本方針と組織及び評価対象Ⅱ組織の運営管理、Ⅲ適切な福祉サービスの実施(別添1)並びに内容評価項目の評価対象A(別添2)

## 8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添3-1）

## 9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

（令和 3年 2月15日記載）

第三者評価受審は、今回2回目の受審となりました。公立保育園は、毎年職員の入替えがあり体制が変わる中で、子どもへの思いは揺らぐことなく、理念に基づいた保育を大切にしてきました。自園の子ども達は、『地域の宝』と地域の皆様の思い溢れた温かい環境の中で、たくさんの方に見守られながら育っています。

今回、良い点として評価していただいた『生きる力を育むための自然保育の実践』や『地域の伝承を取り入れた保育』についてですが、今年度は新型コロナウイルス感染症の対策が大きな課題となりました。地域の大切にしているところを絶やすことなく、どのように保育に取り入れていくかを職員で何度も話し合い実践してきました。評価していただいたことは、私たちの励みとなりました。また、改善点として挙げていただいた『園外活動での更なる安全への配慮』についてですが、今後体験活動をする中で、職員一人一人が『リスク』『ハイリスク』と向き合いながら保育をもう一度見直し、気付いた点、改善すべき点についてはできることから実行していきます。職員一同、更なる研修を重ね、知識とスキルを向上させていきたいと思えます。

保護者の皆様には、お忙しい中、説明会やアンケートへのご協力をありがとうございました。

最後になりましたが、コスモプランニング様には、評価にあたり丁寧なご対応、ご助言をいただきましたこと心より感謝申し上げます。